

## 平成24年度第4回川崎市政策評価委員会 摘録

- 1 開催日時 平成25年3月19日（火）午後3時15分～4時30分
- 2 開催場所 明治安田生命川崎ビル 2階 第1会議室
- 3 出席者 委員 高千穂委員長、生駒委員、川崎委員、安陪委員、松田委員  
事務局 総合企画局都市経営部 金子部長  
総合企画局都市経営部企画調整課 亀川課長  
財政局財政部財政課 斎藤担当課長  
総合企画局都市経営部企画調整課  
岸担当課長、鈴木担当係長、青木職員
- 4 議事
  - (1) 平成23年度施策評価結果に対する川崎市政策評価委員会の改善意見等への対応結果について（報告）
  - (2) 平成24年度「施策進行管理・評価票」検証マニュアル（案）について
  - (3) その他
- 5 傍聴者 なし
- 6 会議内容

### 議事（1）平成23年度施策評価結果に対する川崎市政策評価委員会の改善意見等への対応結果について（報告）

高千穂委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

松田委員）大変真摯な対応をさせていただいており、高く評価したい。ただ、市民の目から見たとき、定性的な説明での分かりやすさも大事だが、やはり参考指標を用い、数字上で歴年の比較をすることで施策が進んでいるかどうかを実感できると思う。一部の施策では、参考指標で表すことが難しいものがあることも理解するが、工事がどの程度進んだかとかではなくて、アンケートによる満足度など何らかの数字は出してほしい。今回の報告を見ても、参考指標の妥当性のところの対応困難の比率が高い。ぜひ各局では今後も検討をお願いしたい。

岸担当課長）施策進行管理・評価票をまとめた冊子である『新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第3期実行計画平成23年度実施結果』については、議会に報告しており、その内容をもとに9月の決算審査特別委員会での審議の材料になっている。そうしたなかで、参考指標の設定が重要だということは議員からも指摘を受けている。

高千穂委員長）市役所は、自分たちがしている仕事の内容、つまりアウトプットについて示すのは容易だが、受益者たる市民がどう思うか、つまりアウトカムについては、間接的にしか知りようがない。アンケートを取るにしても費用対

効果で見ていかないといけない面もある。側聞しているところでは、せっかくアンケートを取っているにも関わらず、所管課の側で、これはそれほど重要ではないデータだと考えて指標として出していないケースもあるようなので、そういうものも出していけばどうかと思う。

## 議事（２）平成２４年度「施策進行管理・評価票」検証マニュアル（案）について

高千穂委員長）事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

生駒委員）各着眼点の判定基準のなかで、「０点の事例に１つでも該当すれば０点を付けるのではなく、全体を読み取って１点または０点のいずれかを御判断ください」と書いてあるのはどのような意味か。

岸担当課長）マニュアルでは、各着眼点において０点となる例を示しているが、記載の一部がそれに該当したとしても、その着眼点が０点であるとすぐ決めるのではなく、全体の文脈を読んで決めてほしいという意味である。

生駒委員）平成２４年度施策進行管理・評価票チェックシートでは、コメント欄が改善意見等と感想等に分割されている。政策評価委員会の意見等を踏まえた改善検討の対象になるのは、前者のみと考えてよいか。

岸担当課長）御指摘のとおりである。平成２３年度施策評価に対する検証チェックシートではコメント欄が分かれていなかったため、対応が必要な改善意見と回答が不要なものの両方が１つの欄に書き込まれていた。これらを１つ１つ各委員に確認するのは難しいことから、記載の内容から回答が不要だと事務局で判断したものを「回答を求められていないもの」に区分した。平成２４年度の検証では、コメントの記入段階で、局に対応を求める趣旨かどうかで記入先を書き分けていただくことで、より着実に、御記入の意図に沿った対応ができればと考えている。

感想欄の活用事例としては、前回の検証でいただいた意見に対し、局から対応が難しいという回答があったものについて、対応困難な事情は理解した上で、「それでも〇〇としたほうがよい」という意見を次回の検証でいただくような場合、参考意見として感想等の欄に書いていただくことも考えられる。

生駒委員）前年度の検証では、委員の間で評価の甘さ辛さのブレが見られた。過去の委員会の議論の中では、「市民が誤解をしない」という基準を満たしていれば要改善とはしない、といった考え方も提起されたように思う。平成２４年度の検証をするにあたっては、委員相互の判断がブレないような考え方をまとめるつもりはあるのか。

岸担当課長）これまでの委員会の議論の中で、事務局としては「市民が誤解を招くような表現」は完全にダメであるが、ある程度理解できれば△であるというよう

な理解をしてきたが、マニュアルでうまく伝えきれていなかった面があるかもしれないので、この場で改めて確認させていただきたい。

高千穂委員長)「市民が誤解を招くような表現」は絶対にあってはならない。一方で、委員ごとにバックグラウンドが違うので、ある程度判定結果に甘さ辛さが出るのは仕方がないと思う。ただ、今回のマニュアルは、全体の中の一部だけを見て0点という判断はしないということにし、どのような視点で見ればいいのかも出ているので、同じ評価票を検証する2人の委員の間で一番良い評価と一番悪い評価に分かれるのを避ける効果はあるのではないかと。

松田委員)学識者と市民委員の両方の目で見ると体制が維持されているので、この方式でやる意味はあると思う。

高千穂委員長)実際に検証を始めると、0.5点にしたいなどの意見も出てくると思うし、学識者と市民委員の両方で見ていけば、必ず議論は出てくる。グレーゾーンは完全になくなることはない。

安陪委員)点数の積み上げによって、「良」「可」「要改善」の3段階評価を決めるプロセスが理解しやすくなることはよいことだと思う。反面、課題・概要・目標の項目が多くなればなるほど、少しでも外れているものが出てきたとき、評価の点数に2点を付けたくても付けられないということがありうるのではないかと気がかりである。

高千穂委員長)そうした、点数で割り切れないときの補足としてコメント欄を活用すべきかと思う。

川崎委員)マニュアルの4～5ページにある評価進行・管理票は、模範的な記入例として所管課に提示されているのか。

岸担当課長)提示している。

川崎委員)この模範例は、成果の説明に参考指標を活用している例であるが、そもそも参考指標を設定できず、成果の説明にも用いることができない施策について、どのように書けば2点の評価をもらえるかについても、模範例を所管課に示してあげたほうがよいのではないかと。

高千穂委員長)今回のマニュアルの7ページの一番下に「目標を数値化できない施策課題の例」について書かれているが、施策に様々な種類があり、網羅的に示すのは難しいので、今後、工夫が必要である。所管課が評価票を記入する際に参考にする記入要領と、このマニュアルは、同じ内容なのか。

岸担当課長)記入要領のほうがマニュアルより先に作成されているため、全く同じで

はないが、マニュアルは記入要領の趣旨を踏まえた内容になっている。

事務局) 記入要領では、マニュアルにあるような過去の記入事例までは示してはいないが、どのように書けば各着眼点の趣旨に沿うのかという点について、このマニュアルと同趣旨の説明をしている。たとえば着眼点②であれば、施策を実施することによる到達点を書くべきで、施策の課題や概要などの繰り返しを書いてはならないといった、このマニュアルの「2点、0点となる例」と同じ趣旨を記載している。

川崎委員) 記入要領のみならずマニュアルについても、所管課に示してあげたほうがよいのではないか。

岸担当課長) 今回は時間的に対応できなかったが、御指摘の通りであり、次年度から対応してまいりたい。

松田委員) 参考指標の数値に表しにくい施策があることは分かるが、局としてはなるべく数字で示す努力をしてほしい。模範的な評価票を示してもらえると分かりやすい。

### 議事(3) その他

高千穂委員長) 事務局の説明に対して、御質問、御意見等があればお願いしたい。

川崎委員) まちを活性化する等の課題について、川崎市政策評価委員会から、次の総合計画ではこういう書き方をしないでほしい等の投げかけをしてもよいのではないか。

岸担当課長) 評価をしてきた立場からの、貴重な御意見をいただければと考えている。

金子都市経営部長) 今後のスケジュールについては明確でないものの、新総合計画を策定する際は、学識者や市民を交えた策定委員会をつくり、意見をいただくことになるが、川崎市政策評価委員会からも次期総合計画の策定にあたり、どのようなものが望ましいか等について御意見があれば、いただければと考えている。

川崎委員) 今の総合計画に対する評価を踏まえて、次のステップである次期総合計画につなげていくことは、PDCAという観点からも、必要なことだと考える。

高千穂委員長) 川崎市の政策評価は、PDCAサイクルで進めることが明記されている。評価の視点を入れて次期計画につなげていくということを関係者が念頭に置いて、進めていただければと考える。